

上肢リンパ浮腫

◆ リンパ浮腫とは

リンパ管は指先から腋窩（わきの下）に向けて走行しており、その数は何十本もあります。乳がんなどの悪性腫瘍手術の際にわきの下のリンパ節が切除されると、リンパ液の流れが悪くなり、上肢にリンパ液がたまって浮腫（むくみ）を生じます。

これがリンパ浮腫という病態です。

ほとんどが悪性腫瘍の治療後に生じますが、生まれつきリンパ管の発育が悪くて浮腫を生じることや、肩や上腕の手術後に生じることもあります。

リンパ浮腫が生じると上肢が太くて動かしにくくなるだけでなく、皮膚が硬くなったり、だるさや熱感を感じたり、蜂窩織炎（ほうかしきえん）という感染を起こしたりします。リンパ浮腫は上肢に限らず、下肢に起こることもあります。



右上肢リンパ浮腫（術前）

右手背から上腕にかけて浮腫（むくみ）を認める。感染も生じており、前腕には赤みがある。

◆ リンパ浮腫の治療

上肢リンパ浮腫が生じた場合、まずは弾性包帯による圧迫療法を行います。専門の資格をもつリンパ浮腫セラピストによるリンパドレナージも有効です。

その他に、リンパ管静脈吻合術という手術で浮腫を軽減することもできます。流れが悪いリンパ管を近くの静脈に繋いでバイパスを作成し、たまったリンパ液を静脈へ流すことでむくみを改善する方法です。2-3cmほどの皮膚切開で行える手術で、局所麻酔でも可能であり、体への負担も大きくありません。

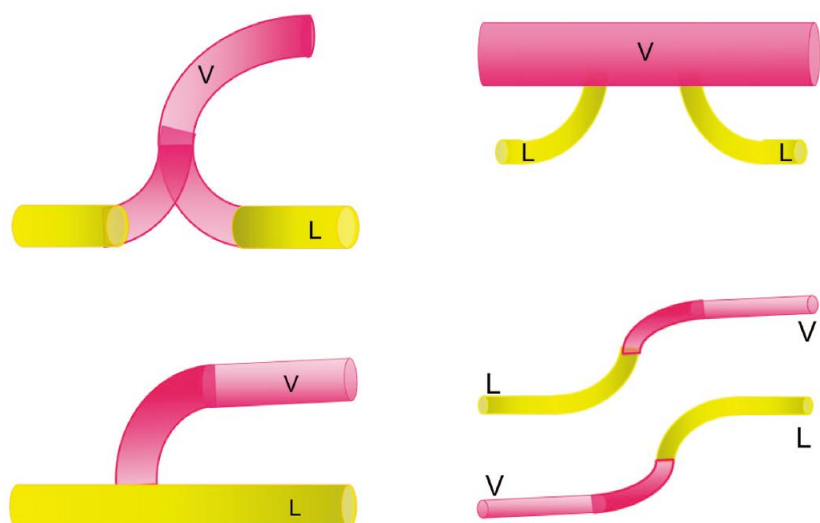
一方でリンパ管は細いものでは0.5mm以下となるため、これを繋ぐには高度の技術をもつ外科医と高性能の顕微鏡、専用の手術器具が必要になります。

手術だけでは効果が少ない場合もありますが、圧迫療法やドレナージ、運動療法などの複合的理学療法と併用することで、よりよい治療効果を期待することができます。



リンパ管静脈吻合術

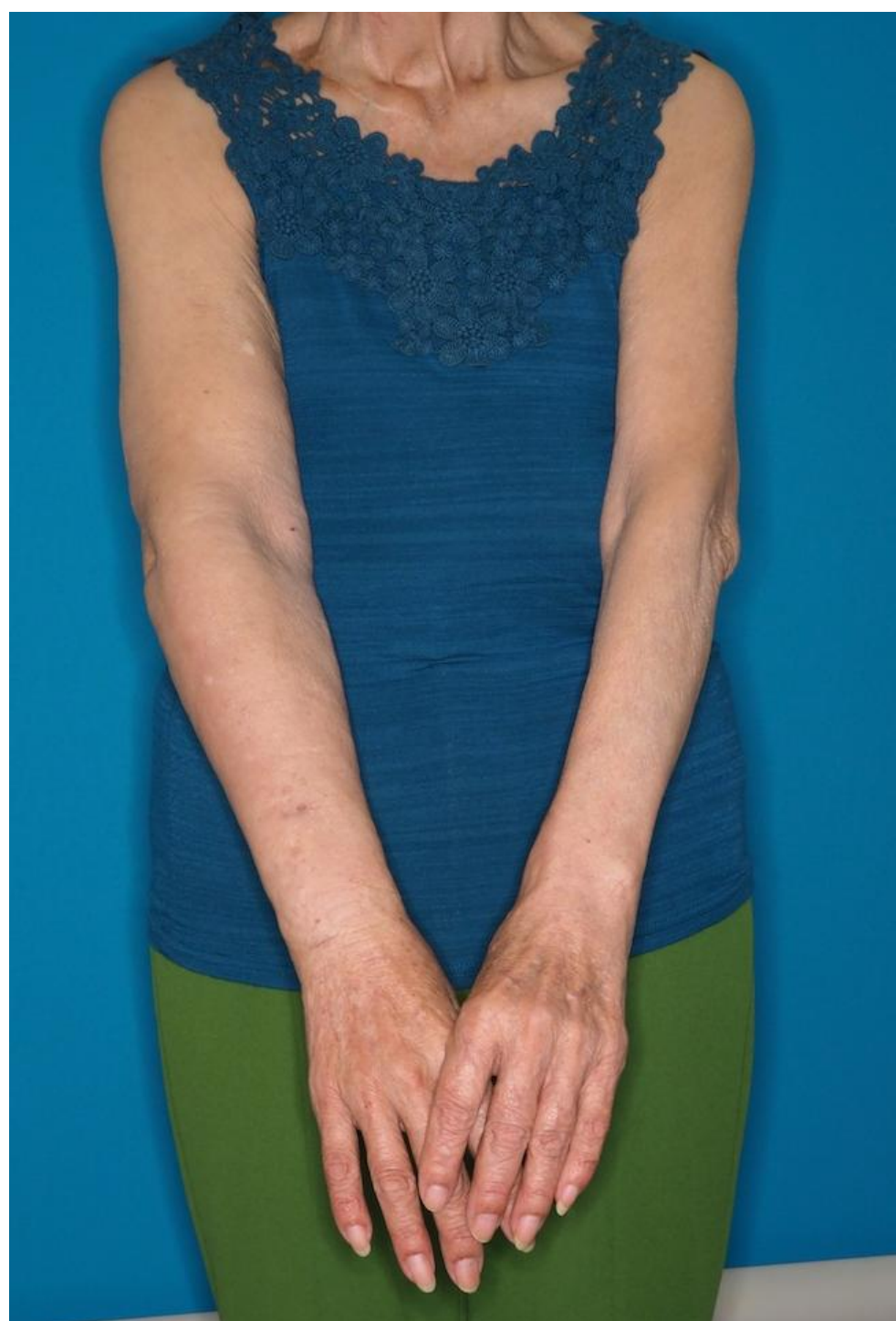
1mm以下のリンパ管を静脈とつないでいる。



リンパ管静脈吻合術のシェーマ

様々な方法でリンパ管と静脈を繋ぎ、たまったリンパ液を静脈へとバイパスして流すことにより、浮腫を減らすことができる。

(L：リンパ管 V：静脈)



右上肢リンパ浮腫（術後）

2回のリンパ管静脈吻合術を行い、浮腫は改善した。